

「きそバス」発進！



令和

7年10月

買い物
編

(予定)

ポイント！

- 地域を結んで運行する**4つの広域幹線バス**が誕生。
- JRと組み合わせてバスのお出かけがもっと便利に。

例えば…

自宅(南木曽駅)



電車 10:19 発
バス 11:16 発
バス 13:16 発

自宅(大桑駅)



電車 10:34 発
バス 11:40 発
バス 13:40 発

ショッピング
センター(大桑村須原)



電車 10:39 着
(須原駅)
バス 11:49 着
バス 13:49 着

行き

帰り

南部幹線

バス 12:16 着
バス 14:12 着

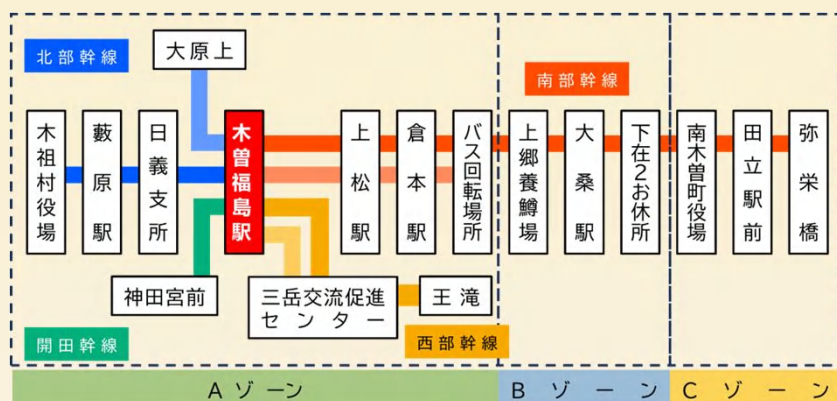
バス 11:52 発
バス 13:48 発

バス 11:43 発
バス 13:39 発

～新しいバスの“特徴”～

- ① 買い物移動の機会が1日に複数回、午前は通院との併用にも対応。
- ② 統一運賃の導入で**料金体系がわかりやすく！**
- ③ **キャッシュレス決済の導入** (準備中)

運賃は、ゾーン内は200円、ゾーンを1つまたぐごとに200円加算されます。



通過ゾーン数

運賃

ゾーン内

200円

1

400円

2

600円

木曽地域のバスの運行が変わるのはなぜ？

木曽地域は、長野県内でも特に山間部が多くを占め、山あいにも小規模な集落が点在し、地域の中心部から公共交通サービスを行き届かせるのが難しい特性があります。

木曽地域のバス運行を取り巻く環境

車社会の進展
→鉄道・バス路線の減少

人口減少
少子高齢化

運転手等の
担い手不足

※現在の路線は、各町村が個別にバスを運行しているため、路線の重複がある箇所もあります。

公共交通は、通勤・通学・通院・買い物・観光を支え、自由な移動を担保するために必要な社会インフラです。
持続可能な地域公共交通の実現に取り組むため、バスの運行を見直すことになりました。

バスの運行はどのように変わるの？

再編前の公共交通ネットワーク(令和6年10月時点)

39路線 (観光路線・乗合タクシー等含む)

再編後の公共交通ネットワーク(令和7年10月～)

36路線
(4広域幹線 7系統 + 29の町村運営路線
(観光路線・乗合タクシー含む))

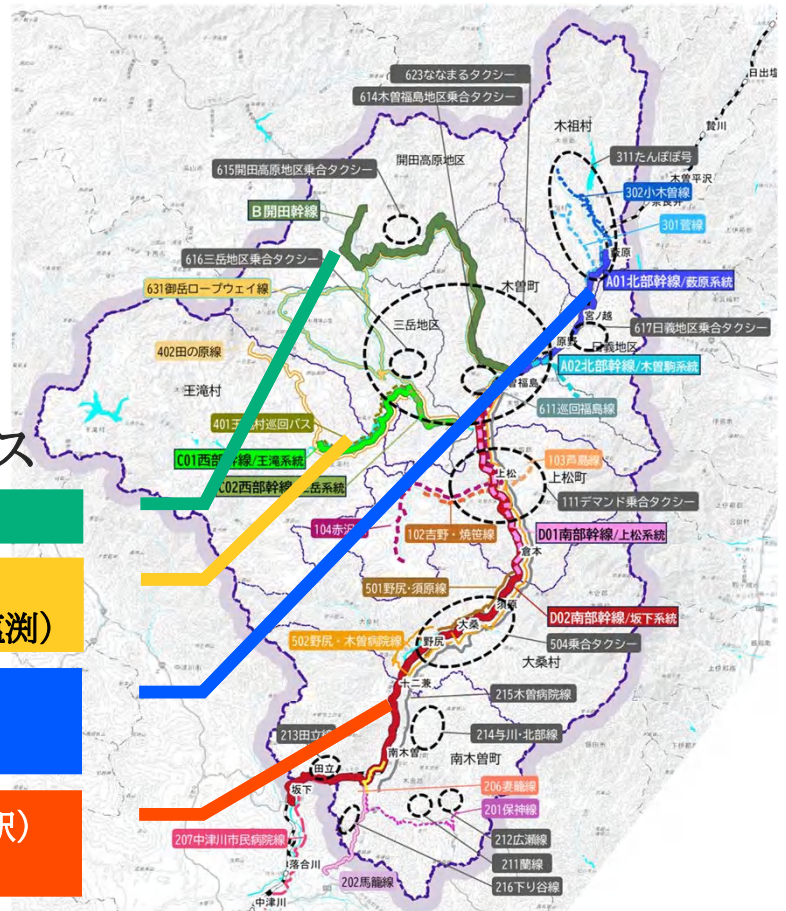
木曽を走る4つの広域幹線バス

開田幹線(神田宮前～木曽病院)

西部幹線王滝系統(王滝～塩渕)
西部幹線三岳系統(三岳交流促進センター～塩渕)

北部幹線蕨原系統(木祖村役場～木曽病院)
北部幹線木曽駒系統(大原上～木曽病院)

南部幹線上松系統(バス回転場所～木曽福島駅)
南部幹線坂下系統(弥栄橋～木曽福島駅)



バスの運行が変わるとどのようなメリットがあるの？

利用者の利便性の向上

- 町村間を移動する場合に鉄道以外にバス移動の選択肢が増加します。
- 土休日便(土日祝)の運行により乗降できるバスが増加します。
- 町村内を走る枝線(巡回バスなど)が広域幹線への乗り継ぎを重視したダイヤになり、スムーズな接続により移動範囲が拡大します。
- わかりやすく、利用しやすい運賃体系、割引制度及びキャッシュレスの導入により、よりバスを日常の移動手段として活用することができます。

地域公共交通の持続可能性の向上

- 車両や運転手を別路線などの運行に活用し効果的な運行ができます。
- 国・県の補助金を活用することで、町村の財政負担が軽減されます。